



**2016年度(2017年3月期)
第3四半期 決算説明資料**

2017年1月31日

株式会社商船三井

目次

2016年度 第3四半期 連結決算概要	2
2016年度 第3四半期 連結決算の要点	4
2016年度 通期 連結業績予想	6
2016年度 業績予想の要点	8
[補足資料 1-9]	10

(註)金額は億円未満を切り捨て表示

2016年度 第3四半期 連結決算概要

(単位: 億円)	2016年度 実績				2015年度 実績				増減	
	1Q	2Q	3Q	4-12月実績	1Q	2Q	3Q	4-12月実績		
売上高	3,600	3,534	3,678	10,814	4,494	4,552	4,124	13,171	△2,356	△18%
営業損益	△ 35	15	0	△ 20	18	63	14	95	△116	—
経常損益	7	47	83	138	108	169	109	387	△249	△64%
親会社株主に帰属する 当期純損益	14	146	29	190	127	△ 130	135	132	+57	+43%
為替(期中平均)	¥110.31/\$	¥103.64/\$	¥105.20/\$	¥106.38/\$	¥120.02/\$	¥123.62/\$	¥121.15/\$	¥121.60/\$	△¥15.22/\$	△13%
燃料単価(期中平均)	\$226/MT	\$257/MT	\$305/MT	\$265/MT	\$369/MT	\$286/MT	\$235/MT	\$296/MT	△\$31/MT	△10%

(註)燃料油単価＝平均補油単価

【経常損益】前年同期比増減分析

(単位: 億円)

為替変動	△88	前年同期比	¥15.22/\$	円高
燃料油価格変動	+39	前年同期比	\$31/MT	下落
積取り/運賃変動・その他	△200			
(合計)	△249			

[セグメント別]

上段	売上高
下段	経常損益

	2016年度 実績				2015年度 実績				増減	
	1Q	2Q	3Q	4-12月実績	1Q	2Q	3Q	4-12月実績		
(単位: 億円)										
不定期専用船事業	1,787	1,730	1,793	5,311	2,168	2,228	2,035	6,432	△1,121	△ 17%
	84	118	54	258	108	182	157	449	△191	△ 43%
コンテナ船事業	1,467	1,449	1,545	4,462	1,945	1,946	1,718	5,609	△1,147	△ 20%
	△ 116	△ 97	△ 47	△ 261	△ 50	△ 41	△ 92	△ 184	△77	—
フェリー・内航 RORO 船事業	102	108	108	319	111	114	109	335	△15	△ 5%
	9	15	14	38	8	15	14	38	0	+2%
関連事業	224	227	214	666	248	244	238	731	△65	△ 9%
	31	26	34	91	25	18	29	72	+19	+26%
その他	18	18	16	53	19	19	22	61	△7	△ 12%
	6	0	12	18	13	2	17	33	△15	△ 47%
調整(消去・全社)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	△ 8	△ 14	14	△ 7	2	△ 8	△ 16	△ 21	+14	—
連結	3,600	3,534	3,678	10,814	4,494	4,552	4,124	13,171	△2,356	△ 18%
	7	47	83	138	108	169	109	387	△249	△ 64%

註1)「売上高」は外部顧客に対する売上高を表示

註2) 不定期専用船事業＝ドライバルク船部門、油送船部門、LNG船・海洋事業部門、自動車船部門

註3) 関連事業＝不動産事業、客船、曳船、商社、人材派遣業等

2016年度 第3四半期 連結決算の要点(I)

【概況】

- ◆ 第3四半期累計期間経常利益は前年同期比で大幅減益。
 - ← 円高、コンテナ市況不振に加え、前年度高い水準で推移した油送船市況が下落した他、自動車船損益悪化。構造改革効果により、ドライバルク部門は増益。
- ◆ 前回(10/31)発表時の3Q想定からは大きく上振れて落着。← コンテナ船損益改善、円安等
- ◆ 第2四半期に関係会社株式売却益184億円(特別利益)を計上済み。

【セグメント別】 [1-3Q/2016(9ヶ月)経常損益実績 (前年同期比増減)]

不定期専用船事業 [258億円 (-191億円)]

■ドライバルク船

- ▶ 市況連動船：市況は昨年春先の記録的低水準を脱し、ブラジル鉄鉱石の堅調な出荷、中国の石炭輸入増加といった好材料により回復基調とはなったが、未だ上値の重い展開。
 - ▶ 中長期契約船：鉄鋼原料・電力炭・木材チップ等の輸送で引き続き安定利益を確保。
- ⇒ 構造改革推進、市況エクスポージャーの縮減に取り組み、しっかりと黒字確保。
前年同期比大幅増益。

■油送船

- ▶ 原油船：新造船竣工やナイジェリア内乱等による需給悪化で7月以降低迷した市況は、秋口以降、ナイジェリア原油出荷再開や冬場需要期入りで回復。
 - ▶ プロダクト船：植物油等の荷動き停滞と新造船竣工により市況は弱含み。
 - ▶ その他：LPG船は需給緩和が続き市況低調。メタノール船・シャトルタンカーは着実に安定利益を計上。
- ⇒ 市況が高騰した前年同期から大幅減益。

2016年度 第3四半期 連結決算の要点(Ⅱ)

■LNG船・海洋事業

期初想定に沿って着実に安定利益を計上。

■自動車船

欧米向け荷動きは引き続き堅調に推移した一方、資源価格安影響により中近東、アフリカ向け荷動きが低迷。

⇒ トレードパターンの変化に対応し、支配船の減船・片道備船の活用等による運航効率改善に取り組んだものの、損益は前年同期比で大幅に悪化し、若干の赤字で落着。

コンテナ船事業 [▲261億円 (-77億円)]

◆ 運賃：北米航路は夏場以降堅調に推移。騰落を繰り返し推移していた欧州航路も冬場に入り旺盛な需要から回復基調。南米東岸航路は需給改善により引き続き高水準にて推移。

◆ 積取：アジア出し北米向け荷動きは10-12月過去最高を記録。北米向け・欧州向共、例年閑散期となる11月に荷動きの落ち込みが軽微に推移。

◆ イールドマネジメント深化による復航消席改善、コスト削減進展。

⇒ 前年同期比では減益となるも、前回(10/31)発表時想定からは上振れて落着。

フェリー・内航RORO船事業 [38億円 (±0)]

熊本地震の影響を受けるも需要は堅調。前年同期並み利益を確保

関連事業 [91億円 (+19億円)]

新ダイビル竣工に伴う一時費用が発生した前年同期から増益。

2016年度 通期 連結業績予想

*2016年度2Q決算発表時点(2016年10月31日)

(単位: 億円)	2016年度							2015年度	増減
	上期実績	下期見通し		通期見通し (今回予想)	通期見通し (前回予想*)	差異	通期実績		
		3Q実績	4Q見通し						
売上高	7,135	3,678	4,005	7,684	14,820	14,130	+690	17,122	△2,302
営業損益	△20	0	△59	△59	△80	△150	+70	23	△103
経常損益	54	83	△58	25	80	△30	+110	362	△282
親会社株主に帰属する 当期純損益	160	29	△190	△160	0	70	△70	△1,704	+1,704
為替(期中平均)	¥106.98/\$	¥105.20/\$	¥110.00/\$	¥107.60/\$	¥107.29/\$	¥104.49/\$	+¥2.80/\$	¥120.62/\$	△¥13.33/\$
燃料単価(期中平均)	\$241/MT	\$305/MT	\$360/MT	\$333/MT	\$289/MT	\$276/MT	+\$13/MT	\$265/MT	+\$24/MT

(註)燃料油単価＝平均補油単価

【cf】前年度実績	上期	下期		通期	
		3Q	4Q		
売上高	9,046	4,124	3,950	8,075	17,122
営業損益	81	14	△72	△58	23
経常損益	277	109	△25	84	362
親会社株主に帰属する 当期純損益	△2	135	△1,837	△1,702	△1,704
為替(期中平均)	¥121.82/\$	¥121.15/\$	¥117.69/\$	¥119.42/\$	¥120.62/\$
燃料単価(期中平均)	\$328/MT	\$235/MT	\$173/MT	\$204/MT	\$265/MT

(参考) 経常損益へのSensitivity

2016年度

為替: **±1.0億円/¥1/\$**
(残り2ヶ月間)

燃料単価: **±0.3億円/\$1/MT**
(残り3ヶ月間)

[セグメント別]

上段	売上高
下段	経常損益

*2016年度2Q決算発表時点(2016年10月31日)

	2016年度							2015年度	増減
	上期実績	下期見通し		通期見通し (今回予想)	通期見通し (前回予想*)	差異	通期実績		
		3Q実績	4Q見通し						
(単位: 億円)									
不定期専用船事業	3,518	1,793	1,988	3,781	7,300	6,930	+370	8,388	△1,088
	203	54	41	96	300	280	+20	548	△248
コンテナ船事業	2,916	1,545	1,687	3,233	6,150	5,830	+320	7,191	△1,041
	△213	△47	△138	△186	△400	△440	+40	△298	△101
フェリー・内航 RORO船事業	211	108	110	218	430	430	0	496	△66
	24	14	6	20	45	50	△5	44	0
関連事業	452	214	203	417	870	870	0	966	△96
	57	34	28	62	120	115	+5	101	+18
その他	37	16	16	32	70	70	0	79	△9
	5	12	2	14	20	10	+10	35	△15
調整(消去・全社)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	△22	14	2	17	△5	△45	+40	△69	+64
連結	7,135	3,678	4,005	7,684	14,820	14,130	+690	17,122	△2,302
	54	83	△58	25	80	△30	+110	362	△282

註1)「売上高」は外部顧客に対する売上高を表示

註2) 不定期専用船事業=ドライバルク船部門、油送船部門、LNG船・海洋事業部門、自動車船部門

註3) 関連事業=不動産事業、客船、曳船、商社、人材派遣業等

【cf】前年度実績	上期	下期		通期	
		3Q	4Q		
不定期専用船事業	4,364	2,019	2,004	4,024	8,388
	291	157	99	257	548
コンテナ船事業	3,891	1,718	1,581	3,299	7,191
	△91	△92	△114	△206	△298
フェリー・内航事業	258	125	112	237	496
	24	14	5	19	44
関連事業	493	238	234	472	966
	43	29	29	58	101
その他	39	22	18	40	79
	16	17	1	19	35
調整(消去・全社)	-	-	-	-	-
	△5	△16	△47	△63	△69
連結	9,046	4,124	3,950	8,075	17,122
	277	109	△25	84	362

註4) 不定期専用船事業とフェリー・内航事業は旧セグメントに基づいて表示

2016年度 業績予想の要点(I)

【概況】

- ◆ 前回(10/31)発表の売上高・営業損益・経常損益予想を上方修正。経常損益は前回赤字予想から黒字予想に。
 - ← コンテナ船積高増加・イールドマネージメント向上、円安等。
- ◆ 当期純損益予想については前回発表時から大幅下方修正。
 - ← 過去1年間でコンテナ船の船価が大幅下落、今後策定する来期予算等や船価動向によって保有船舶の追加減損懸念があることから、業績予想を保守的に見直し。

	前回見通し(10/31)				今回(1/31)		
	上期(実績)	下期	通期経常損益	⇒	上期(実績)	下期	通期経常損益
不定期専用船	203	77	280億円	⇒	203	96	300億円
コンテナ船	▲213	▲226	▲440億円	⇒	▲213	▲186	▲400億円
全社合計	54	▲84	▲30億円	⇒	54	25	80億円
(当期純損益	160	▲91	70億円	⇒	160	▲160	0)

【セグメント別】 [2016年度通期予想経常損益 (10/31発表値からの増減)]

不定期専用船事業 [300億円 (+20億円)]

■ドライバルク船

市況は各船型とも歴史的安値で推移した2016年1～3月を底として反転、緩やかな改善傾向にある。中国を主とした鋼材需要堅調等により、大きな市況下落は見込まない前提。構造改革による市況エクスポージャー縮減は着実に進展。

⇒ 前回見通し並み。前年度の赤字から着実に黒字を確保。

2016年度 業績予想の要点(Ⅱ)

■油送船

- ▶ 原油船：冬場の需要増・ナイジェリア原油出荷の再開により回復した市況は、春先に向け徐々に弱含む前提。
 - ▶ プロダクト船：新造船供給圧力及び裁定取引の減少により期中の本格回復は見込まない。
- ⇒ 前回見通し並み。市況が高騰した前年度からは大幅減益

■LNG船・海洋事業

引き続き安定利益の計上を見込む。

■自動車船

- 日本出し荷動きは北米向けを中心に堅調なるも、中近東・アフリカ向け低調が継続。
- ⇒ 引き続き運航効率改善に取り組むも、損益は前年度比大幅に悪化。通期でも若干の赤字を見込む。

コンテナ船事業 [▲400億円(+ 40億円)]

- ◆ 運賃：旧正月休暇後の閑散期入りである程度下落を見込むが、昨年秋口以降の需給と賃率水準の動向から、昨年春先に見られた記録的安値まで崩れることはないを見込む。
 - ◆ 積取：北米向け、欧州向けともに堅調な荷動きを見込むが、旧正月後の荷動き動向によっては減便等による機動的対応を実施。
- ⇒ 前年度比悪化なるも、前回見通しからは損失縮小。

【配当】 期末は無配を予定(前回発表では「未定」)。中間配当2.0円を支払い済み。

ドライバルク船市況(スポット傭船料)

[補足資料1]

1. 2015年度(実績)

(単位: US\$/日)

船型	2015年度						通期
	上期			下期			
当社(単体)運航船に関わる市況	2015年4-9月			2015年10月-2016年3月			平均
	4-6月	7-9月		10-12月	1-3月		
ケープサイズ	5,800	12,600	9,200	8,200	2,700	5,500	7,300
海外子会社運航船に関わる市況	2015年1-6月			2015年7-12月			平均
	1-3月	4-6月		7-9月	10-12月		
ケープサイズ	5,700	5,800	5,800	12,600	8,200	10,400	8,100
パナマックス	4,800	5,200	5,000	7,600	4,500	6,100	5,500
ハンディマックス	6,400	6,800	6,600	8,800	5,800	7,300	6,900
スモールハンディ	5,300	5,100	5,200	6,300	4,700	5,500	5,400

2. 2016年度(実績・見通し)

(単位: US\$/日)

船型	2016年度						通期
	上期			下期			
当社(単体)運航船に関わる市況	2016年4-9月			2016年10月-2017年3月			平均
	4-6月	7-9月		10-12月	1-3月		
ケープサイズ	6,700	8,100	7,400	12,200	8,000	10,100	8,700
パナマックス	4,900	5,700	5,300	8,600	6,000	7,300	6,300
ハンディマックス				8,300	6,000	7,200	7,200
スモールハンディ				6,900	5,000	6,000	6,000
海外子会社運航船に関わる市況	2016年1-6月			2016年7-12月			平均
	1-3月	4-6月		7-9月	10-12月		
ケープサイズ	2,700	6,700	4,700	8,100	12,200	10,100	7,400
海外子会社運航船に関わる市況	2016年1-6月			2016年7-12月			平均
	1-3月	4-6月		7-9月			
パナマックス	3,100	4,900	4,000	5,700	2016年10月以降は 営業・運航を東京へ移管		4,600
ハンディマックス	3,800	5,800	4,800	7,100			5,600
スモールハンディ	3,400	4,800	4,100	5,800			4,700

(註)

1) 黒字は一般市況実績。

2) 青字は見通し。見通しは、フリー船(スポット契約や2年未満の短期契約に従事)の損益予想において参照する市況水準。但し、荷主と運賃を合意済みの場合は合意運賃を損益予想に反映。

3) 海外子会社運航船については、暦年ベース(1-12月)の市況実績・見通しを表示。(海外子会社は12月決算であり、3カ月遅れで当社連結決算に計上される為。)

4) ケープサイズは5航路(2014年度通期決算発表より変更)、パナマックスは4航路、ハンディマックスは5航路、スモールハンディは6航路の平均。

油送船市況(スポット傭船料換算)

[補足資料2]

1. 2015年度(実績)

(単位: US\$/日)

船型	対象航路	2015年度						通期
		上期			下期			
当社(単体)運航船に関わる市況		2015年4-9月			2015年10月-2016年3月			平均
		4-6月	7-9月		10-12月	1-3月		
原油船(VLCC)	中東-日本 (参考:WS)	52,000 (117)	48,700 (101)	50,400 (109)	77,000 (135)	46,600 (92)	61,800 (114)	56,100 (111)
石油製品船(MR)	主要5航路	20,000	24,700	22,400	17,100	16,200	16,700	19,500
海外子会社運航船に関わる市況		2015年1-6月			2015年7-12月			平均
		1-3月	4-6月		7-9月	10-12月		
LPG船(VLGC)	中東-日本	85,500	97,400	91,500	102,900	67,200	85,000	88,200

(出所) 石油製品船及びLPG船: クラークソン

2. 2016年度(実績・見通し)

(単位: US\$/日)

船型	対象航路	2016年度						通期
		上期			下期			
当社(単体)運航船に関わる市況		2016年4-9月			2016年10月-2017年3月			平均
		4-6月	7-9月		10-12月	1-3月		
原油船(VLCC)	中東-日本 (参考:WS)	41,000 (79)	17,100 (49)	29,000 (64)	45,900 (91)	(55)	(73)	(69)
石油製品船(MR)	主要5航路	12,600	9,600	11,100	9,500			
海外子会社運航船に関わる市況		2016年1-6月			2016年7-12月			平均
		1-3月	4-6月		7-9月	10-12月		
LPG船(VLGC)	中東-日本	45,600	20,200	32,900	11,600	14,100	12,800	22,900

(註)

(出所) 石油製品船及びLPG船: クラークソン

- 1) 黒字は一般市況実績。
- 2) 青字は見通し。見通しは、フリー船(スポット契約や2年未満の短期契約に従事)の損益予想において参照する市況水準。但し、荷主と運賃を合意済みの場合は合意運賃を損益予想に反映。
- 3) VLCCのWSは、2015年度/2016年度ともに2017年のFlat Rateに基づき再計算した数値。
- 4) 石油製品船の市況は、欧州-北米、北米-欧州、シンガポール-豪州、韓国-シンガポール、インド-日本の主要5航路単純平均。
- 5) LPG船は海外子会社で運航しており、暦年ベース(1-12月)の市況実績を表示。(海外子会社は12月決算であり、3カ月遅れで当社連結決算に計上される為。)

1. 2015年度(実績)

(単位: 千台)

(完了ベース/航海傭船を含む)	2015年度						
	上期		下期	通期		通期	
	1Q	2Q		3Q	4Q		
合計	934	974	1,908	1,006	994	2,000	3,908

2. 2016年度(実績・見通し)

(単位: 千台)

(完了ベース/航海傭船を含む)	2016年度						
	上期		下期	通期		通期	
	1Q	2Q		3Q	4Q		
合計	970	1,038	2,007	1,006	1,011	2,017	4,024

*青字は見通し

コンテナ船 主要航路消席状況・運賃推移

[補足資料4]

1. 消席状況

(単位:千TEU)

北米航路 (アジア/北米)		2015年度					2016年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
往	スペース	205	219	204	188	815	214	235	233		
	積高	188	208	179	173	748	186	206	214		
	消席率	92%	95%	88%	92%	92%	87%	88%	92%		
復	スペース	194	218	208	194	814	200	235	235		
	積高	102	101	103	106	413	119	117	132		
	消席率	53%	46%	50%	55%	51%	60%	50%	56%		

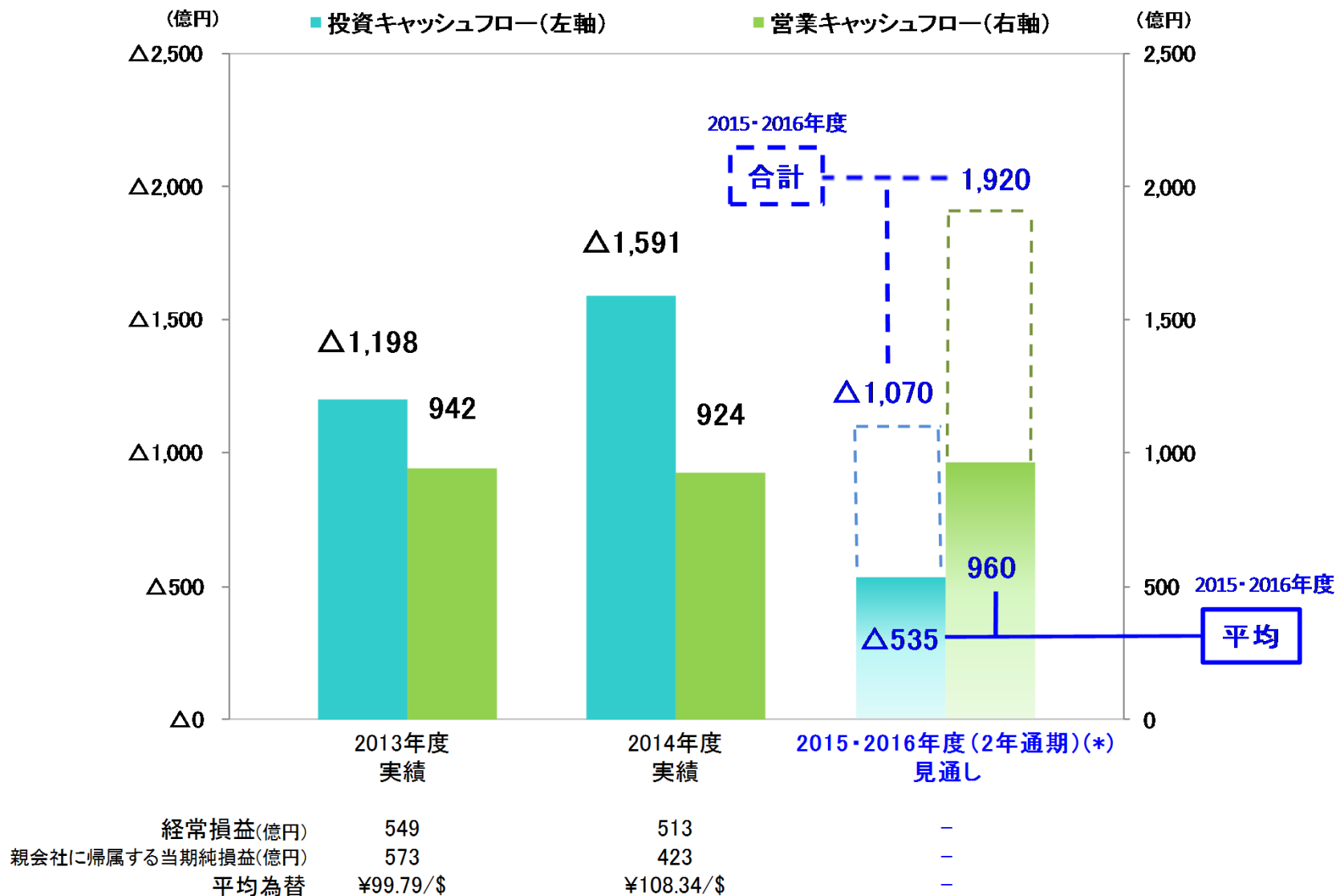
欧州航路 (アジア/欧州)		2015年度					2016年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
往	スペース	120	114	103	112	450	113	115	104		
	積高	100	103	96	100	398	106	103	101		
	消席率	83%	90%	93%	89%	88%	93%	90%	98%		
復	スペース	114	121	106	110	451	107	110	107		
	積高	76	77	78	76	308	80	77	86		
	消席率	67%	64%	74%	69%	68%	75%	69%	81%		

全航路		2015年度					2016年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
スペース		1,538	1,521	1,395	1,345	5,799	1,361	1,435	1,404		
積高		1,036	1,027	972	959	3,994	1,031	1,047	1,093		
消席率		67%	67%	70%	71%	69%	76%	73%	78%		

2. 平均運賃 (指数表示: 2008年度1Q=100)

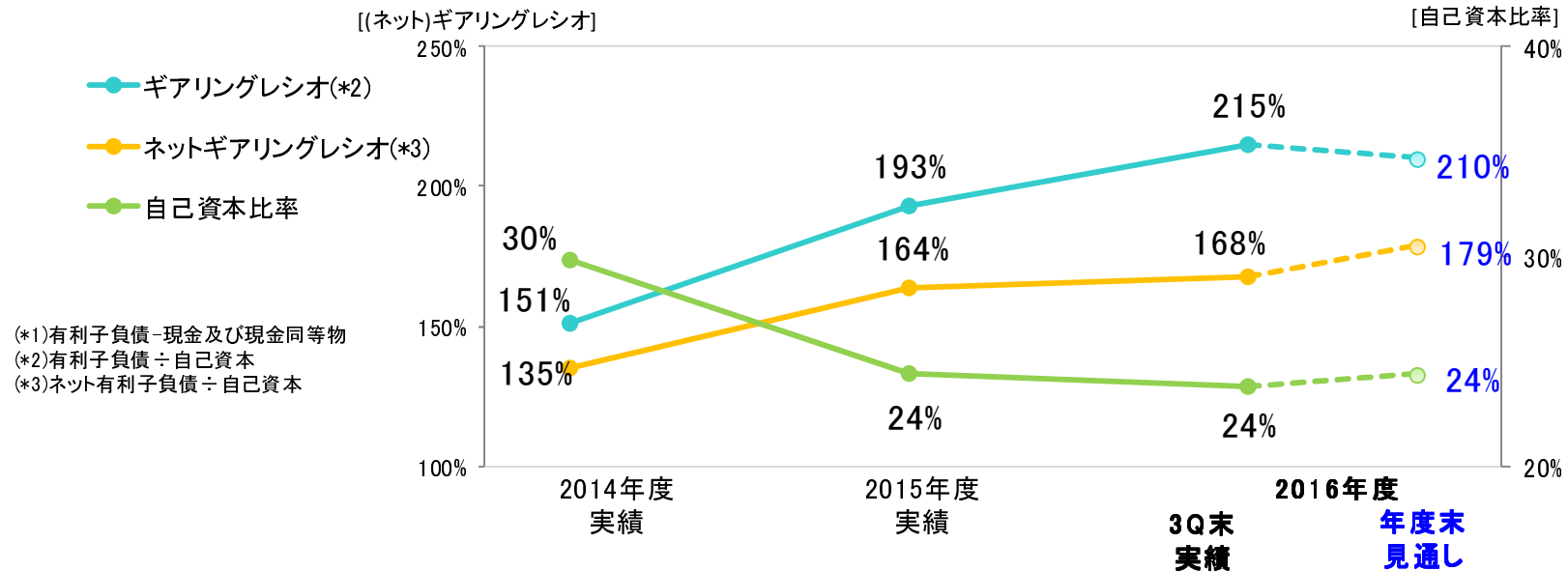
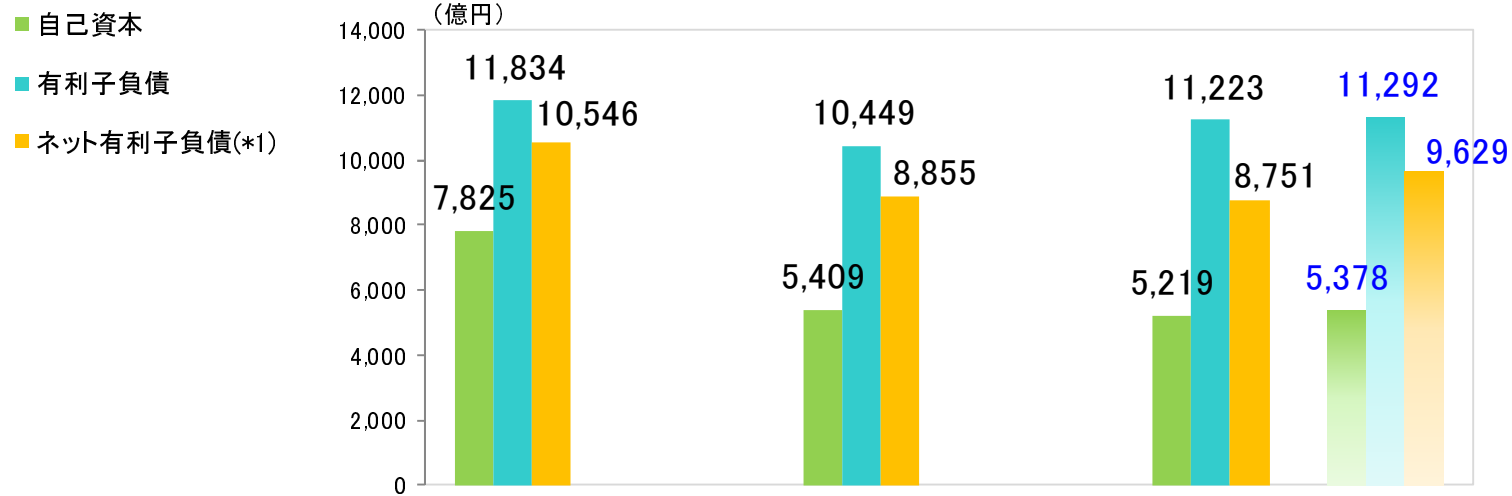
全航路		2015年度					2016年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
運賃指数		74.2	73.0	67.4	64.7	70.0	59.8	60.7	58.9		

(参考)燃料単価(/MT) \$369 \$286 \$235 \$173 \$265 \$226 \$257 \$305



(*)構造改革に伴うキャッシュイン、アウトが2015～2016年度にまたがって発生するため、2年間合計・平均の見通しを表示

□本表の投資キャッシュフローと営業キャッシュフローの差額(=フリーキャッシュフロー)に配当支払いを加味した金額が、ネット有利子負債額の変動に相当(為替水準一定の場合)。(P15上段グラフご参照)



(*1)有利子負債-現金及び現金同等物
 (*2)有利子負債÷自己資本
 (*3)ネット有利子負債÷自己資本

(期末為替)	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 3Q末 実績	2016年度 年度末 見通し
単体	¥120.17/\$	¥112.68/\$	¥116.49/\$	¥110.00/\$
海外子会社	¥120.55/\$	¥120.61/\$	¥101.12/\$	¥116.49/\$

船隊構成(海洋事業含む)

[補足資料7]

			2016年3 月末	2016年9 月末	2016年12月末		2017年 3月末 (見込み)
						1,000dwt	
ドライバルク 営業本部	撤積み船	Capesize	92	90	92	17,826	281 (86)
		Panamax	31	28	26	2,077	
		Handymax	60	65	64	3,501	
		Small Handy	52	43	40	1,374	
	重量物船	6	7	8	112		
	木材チップ船	41	41	41	2,226		
	一般貨物船	48	53	50	854		
	(小計)		330	327	321	27,970	
		(内、市況エクスポージャー)	(154)	(127)	-	-	
エネルギー輸送 営業本部	油送船	原油タンカー	42	41	41	10,798	212 (98)
		プロダクトタンカー	45	45	45	2,699	
		ケミカルタンカー(メタノールタンカー含む)	79	80	81	2,440	
		LPGタンカー	9	8	8	447	
	石炭船	43	42	42	3,830		
	(小計)		218	216	217	20,214	
			(内、市況エクスポージャー)	(101)	(99)	-	
	LNG船(エタン船含む)		69	71	76	6,020	
	海洋事業	FPSO	3	3	4	-	
	内航船(内航RORO船除く)		30	30	30	95	
自動車船			120	118	126	2,137	115
コンテナ船			95	92	88	6,397	84
フェリー・内航RORO船			15	15	14	78	
客船			1	1	1	5	17
その他			2	2	2	13	
合計			883	875	879	62,928	825

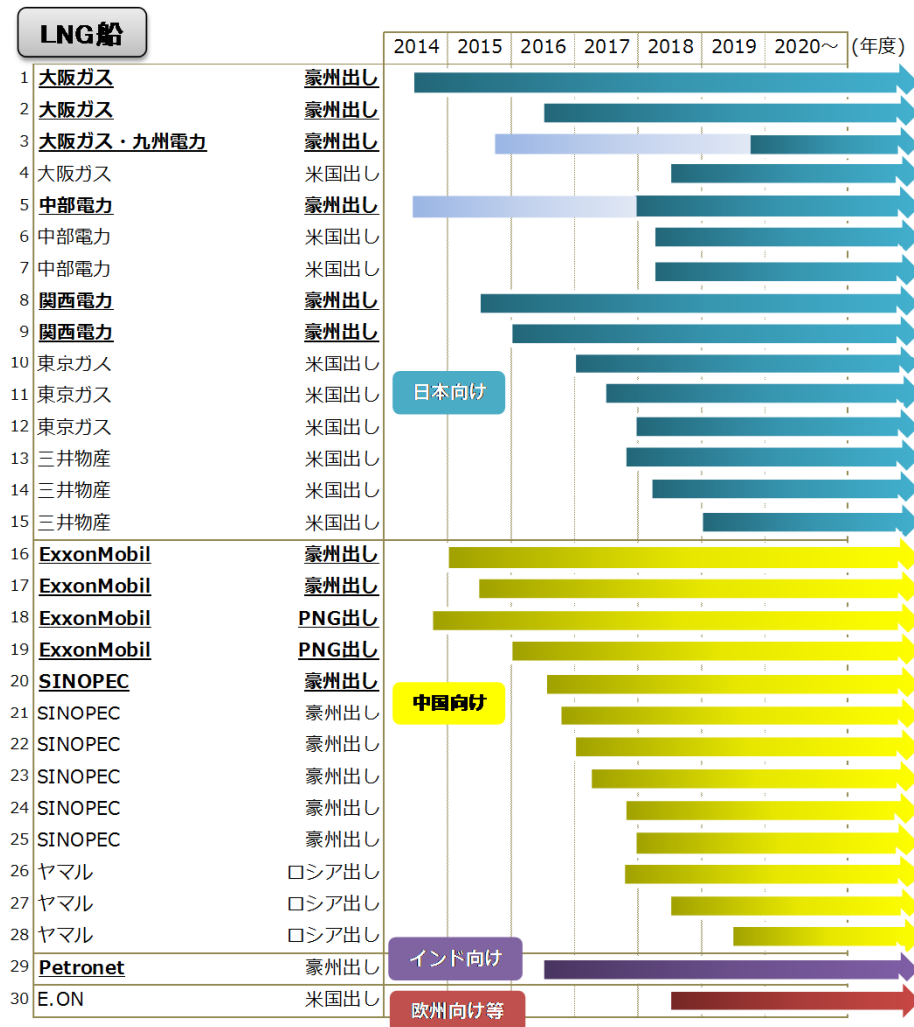
註1) 短期傭船(5年以下)、J/V保有船を含む。

註2) 『市況エクスポージャー』=中長期調達船で、2年以上の契約が付いていない船。

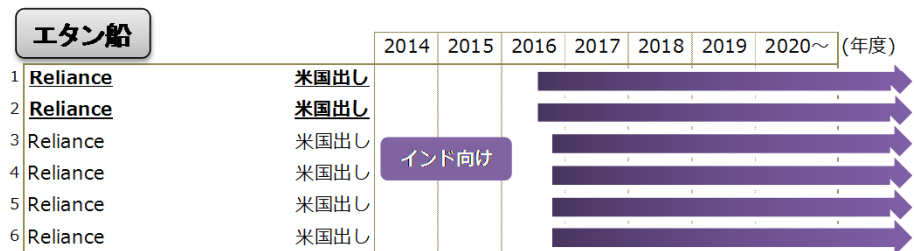
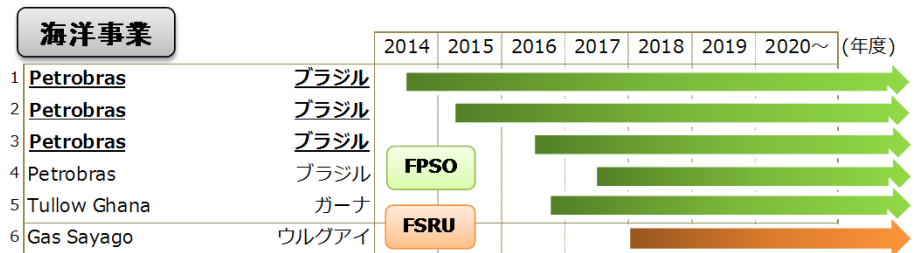
註3) 2017年3月末の市況エクスポージャー見込みは、2016年度2Q決算発表(10月)時点の数字

LNG船・海洋事業 成約状況(2014年度以降竣工船)

[補足資料8]



(註)太字は稼働中



営業外・特別損益(連結)／運航費(単体) 明細

[補足資料9]

1. 営業外収益・費用(連結)

(2016年度第3四半期累計)

(億円)

営業外収益	310
うち:	
受取利息	46
受取配当金	45
持分法による投資利益	35
為替差益	159
その他営業外収益	24

営業外費用	151
うち:	
支払利息	135
その他営業外費用	15

2. 特別利益・損失(連結)

(2016年度第3四半期累計)

(億円)

特別利益	288
うち:	
固定資産売却益	40
投資有価証券売却益	184
その他特別利益	63

特別損失	73
うち:	
固定資産売却損	9
関係会社株式評価損	0
その他特別損失	63

3. 運航費(単体)

(億円)

	2016年度第3四半期	2015年度第3四半期
港費	652	702
貨物費計	1,702	1,979
荷役費及び接続費	1,576	1,821
歩金仲介料	97	133
一般貨物費	28	24
燃料費	886	1,406
雑費	26	41
合計	3,268	4,129